

令和6年度
地域循環共生圏づくり支援体制構築事業
北海道地方ブロック中間共有会 資料

活動団体の活動におけるテーマ

『バイオ炭活用と福祉NPOとの協働による
農・福・環連携事業』

活動団体の活動地域：北海道美幌町ほか

活動団体名：(株)大雪を囲む会

中間支援主体名：(株)地域価値協創システム

活動状況（計画の進捗状況）

○有機農業拡大

- ・地元有機農産物消費拡大＆バイオ炭PRイベント
- ・有機農産品利用商品開発
- ・みどりの食料戦略システム関連視察対応
- ・有機農産品の道内外販売先確保
- ・地元若手農業者への有機栽培指導
- ・経済団体、金融機関依頼セミナーでの事例紹介

○バイオ炭製造・販売

- ・バイオ炭農地投入に関連する各種試験項目検討
- ・バイオ炭PR活動（SNS,HP,動画制作）
- ・東京農業大学、北見工業大学への調査・試験協力要請（プラットフォーム参加）
- ・北海道北見北斗高校探究学習でのバイオ炭探究の取り組み支援

有機農産物消費拡大イベント



有機農業視察の様子

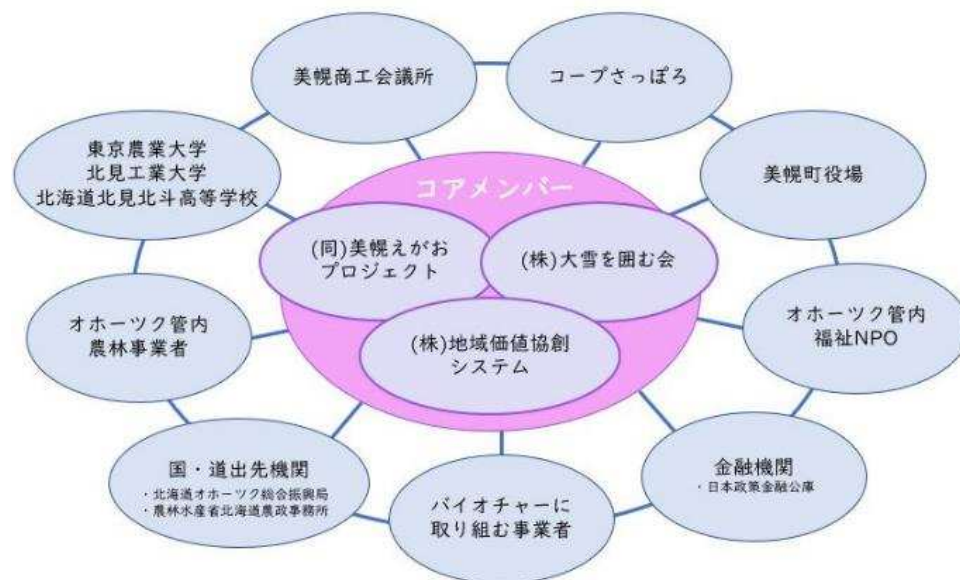


バイオ炭PR動画



現在の“地域プラットフォーム”

① 現在の地域プラットフォーム



③ 地域プラットフォームづくりで困ったことや課題

- ・ 地元大学、高校との関係性は事業開始当初より強くなっているが、今後有機農業拡大との関連性をどのように構築していくか不透明なところがある。
- ・ 新しいことに取り組む余裕が少なく、プラットフォーム強化の可能性を強く感じて、スピード感を持った取り組みが難しい。

② 地域プラットフォームの進展、変化

- ・ 東京農業大学とは、バイオ炭の経済循環への効果、農地投入の効果の2点で調査協力を得る方向で調整が進んでいる。
- ・ 北見工業大学は土壌の植物の根への影響を研究している研究室と接点を持つことができ、今後のバイオ炭の農地投入効果確認への協力が期待できる。
- ・ 北見北斗高校でバイオ炭に関する探究をするグループが2グループあり、バイオ炭への関心が広まっている。

④ 課題解決に向けた今後の展望

- ・ みどりの食料戦略システム推進として有機農業の拡大への関心が高いので、有機農産品を活用した商品開発及び販路の拡大に向けた活動に注力していく。
- ・ バイオ炭、特に廃棄野菜炭の農地投入は地元農業への貢献が高く、農業分野の環境負荷低減にも寄与することから、圃場での試験を充実させていく必要がある。
- ・

地域循環共生圏を実現することで目指す地域の姿

<私たちのありたい未来の地域像>

資源を活かし経済を地域で循環させ多様な人が安心して働き暮らせる地域



脱炭素社会

エネルギーの地産地消
日常生活の脱炭素化

バイオ炭の購入・協力者増

余剰物の再資源化

J-クレジット創出

バイオ炭の用途拡大

循環経済

多様な働き手確保

様々な商品・サービスの地産地消

地域内外のネットワークづくり

分散型自然共生

SDGsへの関心度UP

将来の担い手育成

地域資源の再認識

【期待する成果】

【バイオ炭 製炭事業】

環境事業

- ・J-クレジット創出
- ・農業、建築資材開発
- ・脱炭素パネル展



※ステークホルダー

観光事業

- ・エコツーリズム
- ・炭フェス、炭カフェの開催
- ・キッチンカーによる商品紹介
- ・バイオ炭商品体験

教育事業

〈ローカルSDGsへの理解を
地学協働学習を通して深める〉
対象者…中高生、地域住民、企業関係者

北海道開発局 北海道農政事務所 東京農業大学
林産試験場 美幌町役場 立命館大学
商工会議所 金融機関
農業・林業者 北見NPOサポートセンター

フリースクール 教育委員会
寺子屋 中学・高校
地元NPO 商工会議所

【課題】

- 多様な人が働ける場の確保
障がい者・就労条件に制約のある子育て世代
- 大量の未利用資源の有効化
間伐材・出荷できない農産物の付加価値化

【資源】

- 人的資源
福祉・子育て世代の就労希望者がいる
- 物的資源
未利用の木質バイオマス資源
規格外野菜・農業残差物
- 情報資源
オホーツク地域の観光地イメージ
北海道ブランドの食材が豊富



中間ふりかえり（活動団体）

気づきや発見

- 本事業を実施することで、多くの人との出会いがあり、自分たちのいままでの農業への取り組みが客観的に評価されていることを感じることができた。

課題や悩みに感じていること

- 今後、有機農業を広めていくためには、有機農産品六次化の重要性を感じているが、実施体制がまだまだで、いろいろな方々の協力が必要である。

中間ふりかえり（中間支援主体）

気づきや発見

- みどりの食料戦略システムの目標値が現状から考えると高い数値であり、有機農業やバイオ炭への関心の高さは、今後も高まり続けていく感触をいろいろな形で得ることができた。

課題や悩みに感じていること

- 有機農業の拡大が環境保全、共生圏づくりにどのような貢献するか、わかりやすく伝えていく手法の確立に時間がかかりそうに思っている。